

## 事務事業評価における総括

部 局 名	企画部	記入責任者	添田 信三
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>企画部 4 課では、政策的な事業において、20 事業に取り組みました。結果、S 評価が 10 事業、A 評価が 5 事業、B 評価が 1 事業、Z 評価が 1 事業、実績なしが 3 事業という結果になりました。</p> <p>企画部の事業は、庁内及び庁外の関係機関等の調整を図りながら進めていく事業が多いという特徴があります。外的な要因に左右されるという事業性質はあるものの、実施成果として 15 事業で成果があがっており、また 1 事業は今後成果が見込めるものとしています。社会の変化に対応できる行政計画の達成に向けて、着実に取り組みを進めているものと考えます。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>A 評価とした「広域連携推進事業（寒川連携）」、「広域連携推進事業（平塚連携）」、「表参関係事業」、「ホノルル市・郡との姉妹都市提携交流事業」、「広報ちがさき等発行业」のいずれも新型コロナウイルスの影響で、イベントや研修等が実施できなかつたり、広報紙の発行回数を削減したりしたため、指標を達成することができませんでした。しかしながら、オンライン会議ツールを活用した講演会の実施や、広報紙の特集チラシの臨時発行など、新たな手法や内容を工夫して事業に取り組むことができました。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>令和 2 年度に取り組んだ事業は、成果があがった及び成果が見込める事業は 16 事業（80%）でした。これらの事業の中には、新型コロナウイルスの影響で、実施手法の変更や内容の見直しを行ったものも含まれます。</p> <p>令和 3 年度は前年度の経験を活かし引き続き感染拡大防止対策に取り組みながら、企画部として、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会情勢の変化に対応するための DX の推進、ICT の活用、新しい行政サービスの手法の検討など、既存の枠組みに捉わられることなく、全庁的な事務事業の整理や業務の効率化を推進します。</p>			